

宮城県におけるダイズ子実害虫 3 種の同時防除の検討

○大江高穂・小野 亨・横堀亜弥
宮城県古川農業試験場

ダイズサヤムシガ *Matsumuraes falcana* はダイズの葉・茎・莢を加害する害虫であり、2004～2007 年に実施された子実害虫の被害実態調査において主要害虫であるマメシクイガ *Leguminivora glycinivorella* とフタスジヒメハムシ *Medythia nigrobilineata* に次ぐ被害をもたらしていた。しかし、宮城県においてダイズサヤムシガについての基礎的な研究はこれまで着手されておらず、発生時期や防除適期等は不明であった。宮城県で重要視されるフタスジヒメハムシとマメシクイガについては、9 月上旬のシペルメトリン乳剤の茎葉散布 1 回で同時防除が可能であると報告されているが、本手法がダイズサヤムシガに対しても同様の防除効果を示すかは不明である。そこで、殺虫剤 1 回散布による上記 3 種に対する同時防除の可能性を検討した。

2017 年に古川農業試験場内ダイズは場において、ペルメトリン乳剤、シペルメトリン乳剤、フェンバレレート・MEP 水和剤、クロラントラニリプロール水和剤を子実肥大期である 9 月 4 日に散布し、成熟期に種毎の被害莢率・被害粒率調査を行った。また、フタスジヒメハムシについて薬剤散布前後に払い落とし法で虫数を調査し、各種薬剤の防除効果を確認した。

その結果、フタスジヒメハムシ・ダイズサヤムシガに対して、いずれの薬剤も無処理区と比較して被害莢率・被害粒率のどちらも有意な差は認められず、子実肥大期の 1 回の茎葉散布では被害を抑えることはできなかった。一方、マメシクイガは全ての薬剤で被害を抑えることができた。フタスジヒメハムシの発生密度に対する各種薬剤の防除効果はペルメトリン乳剤、シペルメトリン乳剤の両剤で高い効果が認められたにもかかわらず、子実被害を抑制できなかった理由として、散布時期が防除適期から遅れたためだと推測された。また、フタスジヒメハムシに対する登録はないが、フェンバレレート・MEP 水和剤による防除効果も高かった。ダイズサヤムシガについては、2017 年の幼虫の発生ピークは 7 月中旬、8 月下旬、9 月下旬～10 月上旬の 3 回認められ、9 月上旬の薬剤散布は 2 回目の発生盛期直後の散布時期となったことから、被害抑制効果が認められなかったと推測された。以上のことから、殺虫剤 1 回の茎葉散布により子実害虫 3 種を同時に防除することは難しいと考えられた。

Simultaneous control of seed pests *Matsumuraes falcana* (Lepidoptera: Tortricidae), *Leguminivora glycinivorella* (Lepidoptera: Tortricidae) and *Medythia nigrobilineata* (Coleoptera: Crysomelidae) in Miyagi Prefecture.

Takaho OE・Tohru ONO・Aya YOKOBORI

Miyagi Prefectural Furukawa Agricultural Experiment Station